

平成 22 年度決算財務書類【普通会計】概要版

平成 23 年 3 月 31 日現在
総人口：12,442人

飯網町では住民の皆様にも町の財政状況をよりよく理解していただくために、平成 21 年度決算から「新地方公会計制度」に基づく普通会計財務書類 4 表を作成し、公表することとしました。
普通会計とは、一般会計、住宅新築資金等貸付事業特別会計、福井団地終末処理場管理事業特別会計、からまつの丘地区汚水処理場管理事業特別会計、飯網東高原観光事業特別会計の 5 会計をさします。新地方公会計として作成する財務書類は発生主義ベースで作成されますので、減価償却費のような現金の支出を伴わないコストの把握や、町の資産や、借金といったストックの総体を一覽的に把握でき、従来の決算書では分からなかった情報を得ることができるようになります。

<貸借対照表 (バランスシート) >の解説

貸借対照表とは、3月31日時点において町が保有する資産の状況と、その財源となった負債・純資産の状況を対照表示したものです。左側(借方)に「資産」、右側(貸方)に「負債」と「純資産」が表示され、資産・負債(ストック)の総体を一覽的に把握できます。

(単位:万円) ※100万円未満四捨五入

資産の部 (これまで積み上げてきた資産)		負債の部 (将来世代が負担する金額)	
1 公共資産	(1)有形固定資産 236億7,100	1 固定負債	(1)地方債 55億6,000
	過去の決算統計における普通建設事業費の累積を取得価額とし、減価償却処理を行っています。		(2)長期未払金 5億4,900
2 投資等	(2)売却可能資産 0	2 流動負債	(3)退職手当引当金 14億2,100
	(1)投資及び出資金 4億0,300		(1)翌年度償還予定地方債 5億0,000
	(2)貸付金 8,400		(2)未払金 1億0,700
	(3)基金等 19億9,600		(3)賞与引当金 6,000
	(4)長期延滞債権 7,100		負債合計 81億9,700
3 流動資産	(5)回収不能見込額 △2,200	純資産の部 (現在までの世代が負担した金額)	純資産合計 200億7,500
	(1)現金預金 20億5,600		(3)回収不能見込額 △400
	うち歳計現金 4億7,000		
資産合計 282億7,200	負債・純資産合計 282億7,200		

ポイント!

平成 22 年度の飯網町の資産は 282 億 7,200 万円 (住民一人当たり 227 万円)、負債は 81 億 9,700 万円 (住民一人当たり 66 万円)、純資産は 200 億 7,500 万円 (住民一人当たり 161 万円) です。
主な資産は、道路・橋梁、小・中学校などの有形固定資産であり、その金額は 236 億 7,100 万円です。その他に基金等が 19 億 9,600 万円、現金預金が 20 億 5,600 万円、債権 (貸付金、長期延滞債権及び未収金) が 1 億 7,300 万円あります。過去の不能欠損実績を踏まえると、債権のうち 2,600 万円は、回収不能と見込まれます。
主な負債は、地方債 (固定負債、流動負債の合計) 60 億 6,000 万円、未払金 (固定負債、流動負債の合計) 6 億 5,600 万円、退職手当引当金 14 億 2,100 万円です。

<資金収支計算書>の解説

資金収支計算書とは、一会計年度における現金の流れを、収入・支出の性質に応じて、「経常的収支」「公共資産整備収支」「投資・財務的収支」に区分して表示したものです。

(単位:万円) ※100万円未満四捨五入

期首(21年度末)資金残高	3億6,200
当期収支	1億0,800
経常的収支	23億1,400
支出 人件費・社会保障給付など	39億8,300
収入 地方税・地方交付税など	62億9,700
公共資産整備収支	△4億7,100
支出 公共資産整備支出など	17億1,200
収入 国県補助金等・地方債など	12億4,100
投資・財務的収支	△17億3,500
支出 基金積立金・地方債償還額など	19億6,100
収入 基金取崩額・地方債など	2億2,600
期末(22年度末)資金残高	4億7,000

ポイント!

平成 22 年度の資金収支計算書によると、経常的収支額は 23 億 1,400 万円、公共資産整備収支額は△4 億 7,100 万円、投資・財務的収支額は△17 億 3,500 万円、その結果、歳計現金が 1 億 800 万円増加しました。
【公共資産整備収支】と【投資・財務的収支】は収支差額がマイナスとなっていますが、これは公共資産や基金等への投資が進んだこと、または債務の償還が進んだことを意味します。

<行政コスト計算書>の解説

行政コスト計算書とは、町が一年間に行う人的サービス・給付サービスなど資産形成に直接つながらない経常的な行政サービスに、どのくらいのコストをかけたかを表したものです。

(単位:万円) ※100万円未満四捨五入

経常行政コスト	56億8,600
人にかかるコスト	10億2,700
人件費・退職手当引当金繰入等	
物にかかるコスト	18億5,500
物件費・維持補修費・減価償却費	
移転支出的なコスト	27億2,000
社会保障給付・他会計等への支出	
その他のコスト	8,400
支払利息など	
経常収益	1億7,800
使用料・手数料等	
(差引)純経常行政コスト	55億0,800
(経常行政コスト-経常収益)	

ポイント!

平成 22 年度の経常行政コストは 56 億 8,600 万円 (住民一人当たり 45 万 7 千円)、経常収益は 1 億 7,800 万円 (住民一人当たり 1 万 4 千円) となっています。行政コストを性質別にみると、移転支出的なコストが最も多く 27 億 2,000 万円 (住民一人当たり 21 万 9 千円) です。これは他会計等への支出額が多いためです。また、目的別にみると、福祉関連が最も多く 12 億 8,900 万円 (住民一人当たり 10 万 4 千円) になっています。

<純資産変動計算書>の解説

純資産変動計算書とは、貸借対照表の純資産が1年間でどのように増減したかを示すとともに、行政コスト計算書で計算した純経常行政コストがどのように税収や補助金収入などの財源で賄われたかを示すものです。

(単位:万円) ※100万円未満四捨五入

期首(21年度末)純資産残高	194億1,700
当期変動高	△55億0,800
純経常行政コスト	
財源調達	62億3,600
地方税・地方交付税・補助金等	
その他	△7,000
臨時損益	
期末(22年度末)純資産残高	200億7,500

ポイント!

平成 22 年度の飯網町の期首純資産残高は 194 億 1,700 万円、期末純資産残高は 200 億 7,500 万円、純資産が 6 億 5,800 万円増加しました。55 億 800 万円のコストに対して、これを上回る 62 億 3,600 万円の税収や地方交付税収入等があったためです。純資産残高が増加したことは、22 年度の税収等 (税収、地方交付税など) で当該年度の行政コストを賄ってなお余りが生じ、将来世代への財産の蓄積が進んだことを示しています。